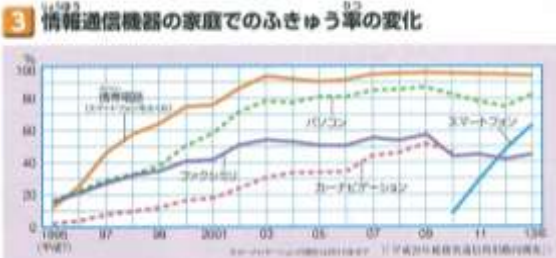



# 社会科部 実践① 小学校 第5学年 「くらしを変える情報」10時間

目標 情報化した社会の様子に関心をもって意欲的に調べ、情報通信技術の活用は様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解する。

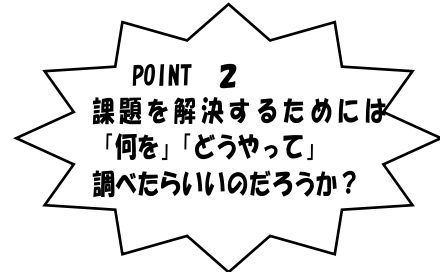
時	学習活動の概要	指導上の留意点
①	<p>(ねらい) 身の回りには様々な情報とそれを得るためのメディアがあり、普段から様々な場面で利用していることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭生活や学校生活・まちの中など、普段のくらしの中でどんな情報やメディアを使っているのかを考える。</li> <li>現在と30年前の情報を伝える方法を比べ、気づいたことを話し合う。</li> </ul>  <p>3 情報通信機器の家庭でのふきゅう率の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの生活経験を尋ねる際は、情報(ものと内容についてのお知らせ)とメディア(情報を伝える方法)を整理しながら板書する。</li> <li>○資料集などの資料を活用しながら、情報通信機器は全体的に普及していることをつかめるようにする。</li> <li>○教科書や雑誌などの意見が出た際には、これらもメディアの1つであることを伝えると共に、裏面にあるバーコードに着目することで次時以降の学習につなげる。</li> </ul>
②	<p>(ねらい) 生活経験や依頼伝票をもとに配達物がいつも確実に届けられる理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宅配便を利用した経験を伝え合いながら、なぜいつも確実に荷物が届いている事実をつかむ。 「おばあちゃんから野菜が届いてうれしかった」 「旅行先で買ったお土産が家に届いて安心した」 「1年で18億件も配達しているんだ。いつもちゃんと荷物を届けられてすごいな」</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>1年で18億件も配達しているのに、なぜいつも確実に荷物を届けられるのだろうか</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活経験や依頼伝票をもとに、なぜ配達物がいつも確実に届けられるのかを考える。 「お届け先の住所や依頼人の情報は絶対にあるな」 「依頼伝票に12ケタの数字がある。バーコードにも同じ数字があるけれど、何に使うのだろうか」 「12ケタの数字の使い方について調べたいな」</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>【単元を方向付ける学習課題】</b> 18億件の配達物を確実に届けるために、数字やバーコードの情報をどのように使っているのだろうか</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○宅配便を受け取った経験と送った経験について話し合い、誰もが利用していることと、いつも確実に届いている事実気づけるようにする。</li> <li>○運輸業者の年間配達件数を提示することで、年々増加する荷物を大量に扱いながらも確実に届けていることに気づけるようにすることで問いを生み出せるようにする。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 20px 0;">  <p><b>POINT 1</b> 何でいつも確実に届くの?</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実際に利用した際の依頼伝票を提示し、荷物を確実に届けるために必要な内容を読み取ることで、12ケタの数字のような何に使うかわからない内容にも意識が向くようにする。</li> <li>○子どもの意識が12ケタの数字やバーコードに向いたところで単元を方向付ける学習課題を子どもと共につくる。</li> </ul>

③

(ねらい) 配達物がいつも確実に届けられる理由をさぐるために、「誰が」「どのように」利用しているかに着目しながら調査計画を立てる。

- ・運輸会社の方へのインタビューや店舗見学に向けて、計画を立てる。  
「12ケタの数字とバーコードの意味は聞きたいな」  
「誰が数字とバーコードを使うのかもはっきりさせる必要があるな」  
「配達物の送り方や配達の流れも知った方がいいな」  
「どうやって住所先の家を見分けるのかドライバーにインタビューしよう」

- 課題を解決するために「何を調べるのか」、「何を聞くといいか」、「何を見るといいか」考えるよう促すことで、課題解決への見通しがもてるようにする。



④

(ねらい) 運輸会社の方の話聞きながら情報通信技術がどのように使われているのかを理解する。

⑤

- ・運輸業者の営業所に見学に行き、インタビューをしながら、調べ学習を行う。



- 事前に打ち合わせを行い、子どもの質問する内容を知らせることや、12ケタの筋を使った仕組み（NEKOシステムという情報通信技術）の活用の仕方を詳しく話してもらうことなどを伝えておく。
- 見学の際、実際に荷物の配達依頼をすることで、荷物の受付や配達の流れといった情報通信技術の活用場面を見られるようにすると効果的である。
- 情報通信技術を効果的に活用していなかった頃の様子について話をしてもらうようにする。

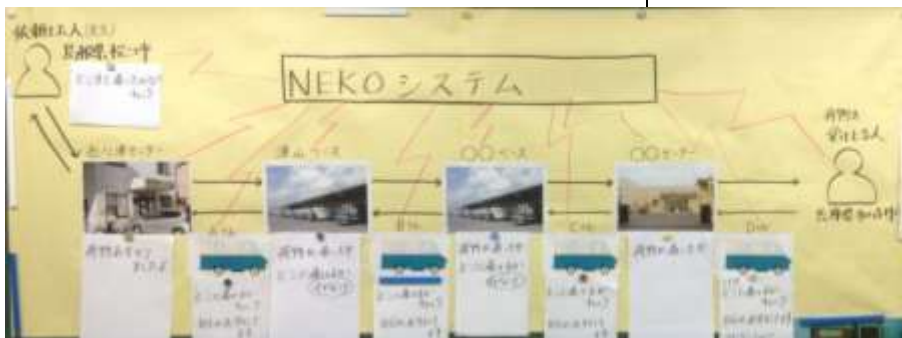
⑥

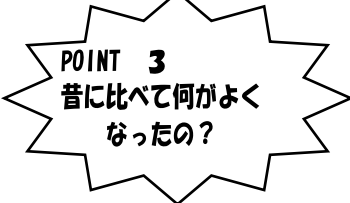

(ねらい) 運輸会社における情報通信技術の使い方について図にまとめる。

⑦

- 「NEKOシステムは営業所の人荷物を預かったときや荷物を運送するときも使っているんだ」  
「運転手さんはどの家に届けるといいか確認するときにも使っていたね」  
「12ケタの数字は運輸業者だけでなく、ぼくたち利用人も使えるんだね。」

- 12ケタの数字やバーコード（NEKOシステム）について「使う場面」や「使う人」を整理しながらまとめる。
- 情報通信技術を効果的に活用していなかった頃の様子（1980年頃）についてまとめておく。
- 情報通信技術が活用されている場面をイメージできるように、配達の流れを示したワークシートに書き込みながらまとめられるようにする。



⑧	<p>(ねらい) 過去と比べながら、情報通信技術の活用における産業の発展と国民生活の利便性の向上について具体的に考える。</p>	
<p>「NEKO システムは荷物をどこに届けるか、いつどこにあるのかわかる仕組みのものだ」</p>		<p>○支店長が配達をしていた当時の苦労話にふれることで現在の宅配との違いに意識が向くようにする。</p>
<p>NEKOシステムの活用によって、昔に比べて宅配の何がよくなったのだろうか</p>		
<div style="text-align: center;">  <p><b>POINT 3</b> 昔に比べて何がよくなったの？</p> </div> <p>「いつどこに届けるかヤマト運輸の誰もがわかるから「希望時間により確実に」配達できる」  「昔は地図を見て配達していたけれど、今は配達の人にナビを使っているから時間を短くして配達できるし、配達量も増やせるな」  「NEKO システムの活用によって宅配がよりよくなると会社は信用が高まるし、依頼も増える」  「ヤマト運輸のサービスが向上するとわたしたちはもっと便利に宅配を利用することができる」</p>		<p>○見学メモやまとめた図などを使いながら「違う点」や「新しくできるようになったこと」に意識を向けるよう促すことで「よくなったこと」を具体的に考えられるようにする。</p> <p>○宅配について、「何が」「どのように変化したのか」を整理して板書することで NEKO システムによる産業の発展を多面的につかめるようにする。</p> <p>○利用者側の視点に目が向いた発言がある場合は、「なぜそう思ったのか」と意見を掘り下げることで、産業の発展と国民生活の利便性の向上との関連に気づけるようにする。</p> <p>○売上量の推移や共働き家庭数の推移がわかる資料などを提示し、情報通信技術の活用が産業の発展や国民生活の変化に関連していることに気付けるようにする。</p>
<p>(ねらい) 他の産業における情報通信技術の活用とその効果について考える。</p>		
⑨	<p>・教科書にある内容を参考にしながら、他の産業における情報通信技術の活用とその効果について図にまとめる。  「福祉分野でも使われていて、高齢者だけでなく、遠くにいる家族も安心できるんだな」  「防災無線は一度で、一斉に情報を送ることができるから市民みんなに短時間で伝わるんだ」</p> <div style="text-align: center;">  <p><b>POINT 4</b> 他の分野でも利用されているんだ</p> </div>	<p>○教科書に載っている「教育」、「福祉」、「防災」の分野から選択して図にまとめるようにする。</p> <p>○図にする際、吹き出しを考えながらまとめることで、誰のくらしがよくなるのかを意識できるようにする。</p> <p>○まとめた図を紹介し合うことで様々な分野で情報通信技術が活用され、産業の発展と国民生活の利便性の向上につながっていることを理解できるようにする。</p>
<p>(ねらい) 情報通信技術の活用における課題を理解すると共に、活用のあり方を考える。</p>		
⑩	<p>・情報通信技術の活用における課題を知り、よりよい活用のあり方について考える。  「簡単に個人情報をインターネット上で書かない方がいいんだな」  「インターネット通販は簡単だけれど、そのおかげで運輸業の人は大変な思いをしていたんだ。近くの店で買えるものは自分で買うことが大切だな。」</p>	<p>○個人情報の管理の問題や情報通信技術のコンビニ感覚利用による問題などを取り上げることで、自分自身の活用の在り方に目が向くようにする。</p>

## ～ポイント解説～

### POINT 1 「何で配達物はいつも確実に届くの」⇒生活経験や配達依頼伝票をもとに「単元を方向付ける学習課題」をつくる。

情報やメディアの意味と利用について第1時で学習をした後、第2時では実際に産業で活用されている情報通信技術の中でも運輸業での活用に焦点を当て授業を行った。本時では「配達物がいつも確実に届けられる理由を考えること」をねらった。

まず初めにこれまでの宅配の利用経験を話し合う中で子どもは「当たり前だけれどいつも確実に届いている」ということをつかんだ。そこで「運輸業者の年間配達件数」の資料を提示した。すると、子どもからは「1日だと500万件配達していてすごい」という意見とともに「何でたくさんの荷物を間違えずに届けられるのだろう」という問いが生まれた。そこで子どもの問いをめあてとして提示し、話し合った。その際、どの子どもも自分の考えに根拠をもち、共有できるように「依頼伝票」を資料として提示した。「依頼伝票」をもとに話し合うことで、届け先の情報や依頼人の情報、配達希望などが書いてあることに気づき、それらが確実な配達に必要な不可欠な情報であることを共有した。一方で「依頼伝票」の右側に12ケタの数字とバーコードがあることに気づきながらも、これだけは「何に使うのか」説明をすることができなかった。そこで、単元を方向付ける学習課題を設定した。

本時では、2つの資料を中心に学習を進めることで「荷物がいつも確実に届くこと」と「年間18億件もの配達件数」があるという意識のズレを作ることによって本時の問いを、依頼伝票をもとに考えることを通して単元全体の問いを子どもが作り、主体的に追求する姿を生み出すことができた。



### POINT 2 「何をすればいいのか、何を調べるといいのか」⇒課題解決に向けた見通しを立てる

問題解決的な学習過程を組む中で、課題解決のために「何をすればいいのか」「何を調べるといいのか」ということを明確にして学習を進めることが重要である。そこで、本単元でも課題解決への見通しをもつための計画の時間を設定した。子どもに投げかけた視点は「はっきりさせたいこと」と「そのために見学で見ること・質問すること」の2点である。以下は子どもが考えた調べる視点と予想である。

【課題解決のためにはっきりさせたいこと】→なぞの数字とバーコードの正体と使われ方  
(わかることの予想) 商品の中身・内容 依頼人と受取人の情報 支店の情報  
(誰が使っているかの予想) ヤマト運輸の人 依頼人 受取人 商品を売った店  
(いつ使っているかの予想) 伝票に不備があったとき 配達物を仕分けるとき  
届けるときに確認するとき 配達された後

#### 【課題解決のために見ること・質問することの抜粋】

(見ること) 12ケタの数字が使われている場面 依頼伝票を受け取る場面 など  
(質問すること) いつ12ケタの数字を使っているのか 誰が使っているのか など

子どもたちが見学に行く際の視点を事前に、そして明確に持つことで、「どの場面を見たらいいのか」、「インタビューした内容の何をメモすればいいのか」ということを意識しながら活動することができた。この見学で得られた情報は子どもたちにとって課題解決に向けた一番大切な資料となるものである。実際に見学当日は、12ケタの数字を使う場面で興味深く見学する姿や主体的に質問をすることで、課題解決の核となる情報をしっかり見つけ出し、まとめることができた。





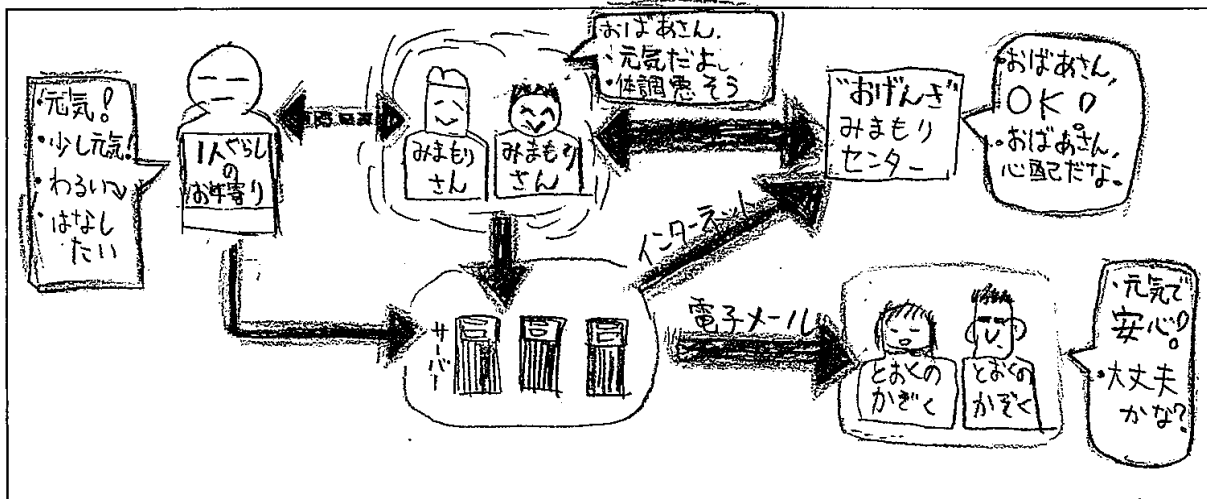
**POINT 4 「他の産業でも使われているんだ」→情報通信技術が様々な産業分野で活用され、どのようなよさがあるのかを考えられる場面を設定する。**

これまでの学習を通して子どもたちは運輸業での情報通信技術の活用とそのよさを理解することができた。そこで第9時で他産業での情報通信技術の活用とそのよさを理解することをねらい、作成した図が次のものである。

教科書に紹介されている分野の内容を参考にしながら、それぞれの立場の人の吹き出しを考え図にまとめることで、「誰のくらしがよくなるのか」を意識できるようにした。「この仕組みのおかげで誰もが安心して生活できるようになっている」という言葉からも情報通信技術の活用のよさを理解していることがわかる。

また、授業の終末には違う分野についてまとめた図を紹介しあう時間を設けた。そうすることで、様々な産業分野で情報通信技術が活用され産業の発展と国民生活の利便性の向上につながっていることを理解することにつながった。

1. 調べる産業「福祉」
2. 使われている情報通信技術 → 「おげんき」みまもりシステム
3. 「誰が」「どのように使っているか」図にまとめてみよう



4. どんないいことがよくなっているか

この仕組みのおかげで、誰もが安心して生活できるようになっています。

**成果と課題:教科構想に基づいて本実践を振り返る**

「深い学び」を実現する場の追究として、社会科部では「子どもの追求意欲を高める学習対象との出会わせ方の工夫」、「社会的な見方・考え方を働かせる問いをつくる工夫」、「子どもの考えを可視化する工夫」、「視点を明確にしたふりかえり」を手立てとしてあげている。

「子どもの追求意欲を高める学習対象との出会わせ方の工夫」においては、宅配の利用経験の共有や宅配の依頼伝票など、なるべく子どもの日常のくらしに近いものを題材として取り上げて実践を行った。情報通信技術は子どもにとって対象が見えにくく、くらしとのつながりが考えにくい学習内容である。実際に宅配を利用した経験を話し合う中で「大量の配達物がいつも誰にも確実に届く」という事実に出会い、依頼伝票をもとに理由を考えることで情報通信技術の利用場面を具体的に捉え、課題解決に向けて自ら追求する姿、解決の見通しをもって調べ学習を進める姿につながった。

「社会的な見方・考え方を働かせる問いをつくる工夫」においては、「位置や空間的な広がり」、「時期

や時間の経過」,「事象や人々の相互関係」といった見方(考える視点)と「社会的事象を捉え比較・分類・総合することや国民生活と関連づける」といった考え方(考える方法)を意識できる問いづくりを意識した。第8時では「NEKOシステムの活用によって、昔に比べて宅配の何がよくなったのだろうか」という過去と比較する問いを設定した。そうすることで、情報通信技術が活用されていなかった時代と現在との違いに自然と目を向け、情報通信技術による産業の発展と国民生活の利便性の向上について理解を深める姿につながった。

「子どもの考えを可視化する工夫」においては調べ活動におけるワークシートの活用や運輸業における情報通信技術の活用場面を図に表す活動、他の産業における活用場面をまとめる活動を設定した。運輸業では配達物の輸送の流れと情報通信技術の活用の流れは異なる。図に表すことで自分の考えを伝える際に根拠を明らかにし、自信を持って伝える姿につながった。

「視点を明確にしたふりかえり」においては「めあてについて考えたこと」や「自分のくらしとの関わり」など視点を明確にして振り返ることを大切にされた。そうすることで、子ども自身が自分の学びの状況を自覚する姿が見られた。また、教師が子どもの疑問を見とり、次時の学習のめあてや発問につなげることで子どもが主体となる授業をつくることにもつながった。

こうした手立てによって見えてくる子どもの姿から、社会科部で育成を目指す「問題解決能力」の高まりを感じることができる。今後も子どもが社会的な見方・考え方を働かせながら深い学びに迫れるように、考える視点(見方)と方法(考え方)を単元の中でどのように組み込んでいくとよいかを意識し、授業実践を重ねていきたい。

(藤原 良平)

# 社会的な見方・考え方を働かせた社会科授業づくり

## 1. 社会科を学ぶ本質的な意義

新学習指導要領では、教科の特色や役割といった、いわば教科の存在意義を示す教科目標について、前文（総括目標）と三項目の具体的目標から構成している。小学校の総括目標は「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す（傍点引用者）」である。各教科等の目標の冒頭にも同様に「見方・考え方を働かせる」旨が示された。『答申』（平成28年）では、「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」といった、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（思考の枠組み）だとしている。「見方・考え方」を働かせた学びの過程を通じて資質・能力は伸ばされ、また新たな資質・能力が育まれることによって「見方・考え方」が更に豊かなものになると考えられている。「見方・考え方」は、育成すべき資質・能力の全体にかかわるものであり、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核になるものだと考えられる。

## 2. 授業づくりの柱となる「社会的な見方・考え方」

小学校社会科の「社会的な見方・考え方」（小学校社会科の学年目標では「社会的事象の見方・考え方」と表記）は、学習の問題を追究・解決する活動において、社会的事象の特色や意味などを考えたり（考察）、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり（構想）するための「視点や方法」だとされている。「視点」は地理的（位置や空間的な広がり）、歴史的（時期や時間の経過）、社会的（事象や人々の相互関係）なものからなり、追究の「方法」とは、社会的事象を見出すこと、見出した事象を比較・分類、総合したり、関連付けたりすることと示されている。これらのことから、新指導要領では社会的事象の理解（考察）と学んだことを社会生活にいかすこと（構想）という社会認識と市民性の両面の育成が重視されており、これを社会科授業レベルでどのように実現していくかが課題となる。

## 3. 社会を知る、社会をわかる、社会にかかわる学習活動

社会認識と市民性の育成を重視した社会科授業に必要とされる学習活動として次の3つをあげたい。

- ・社会的事象に対して「どのようになっているか」と問いかけ、資料を収集して読み取り、知ったことをまとめる活動。
- ・社会的事象に対して「なぜか、特色は何か」と問いかけ、見出した事象相互の関係や意味・意義、特色を考え、わかったことをまとめ、伝える活動。
- ・社会的事象に対して「どうしたらよいか」と問いかけ、解決の方法や方策を判断して、その結果についてまとめ、説明・議論する活動。

「どのようになっているか」「なぜか、特色は何か」「どうしたらよいか」という「問い」を子ども自らが発見し、その答えを追究する社会科授業実践が求められるであろう。

（共同研究者：教育学研究科、加藤寿朗）